

# 第26回 医学教育指導者フォーラム開催要綱

- 趣 旨 大学医学部における医学教育の改善ならびに教育研究組織の円滑な管理運営に資するため、医学教育について責任ある立場にある方の参加を得て、医学教育の様々な問題について情報の交換ならびに討論を行う。
- 主 題 医学教育におけるパフォーマンス評価 - パフォーマンス評価による学習の質の評価 -  
\*裏面に「趣旨と背景」を記載
- 主 催 公益財団法人 医学教育振興財団
- 期 日 平成26年7月15日(火)
- 場 所 東京慈恵会医科大学 大学1号館講堂(3階)  
105-8461 東京都港区西新橋3-25-8 電話:03-3433-1111(大代表)
- 参加者 国公立医科大学学長、医学部長、医学部附属病院長および教務委員長等
- 参加費 5,000円
- 講 師 **Jane Dacre** (Professor, University College London Medical School)  
**Trudie E Roberts** (President, the Association for Medical Education in Europe /  
Director, the Leeds Institute of Medical Education, University of Leeds)
- 松下 佳代(京都大学高等教育研究開発推進センター教授)  
長谷川仁志(秋田大学大学院医学系研究科医学教育学講座教授)  
田川まさみ(鹿児島大学大学院医歯学総合研究科医歯学教育開発センター長・教授)

## 日 程

- |               |   |   |   |
|---------------|---|---|---|
| 09:00 ~ 10:00 | 受 付   |   |   |
| 10:00 ~ 10:10 | 開 会   | 〈開会挨拶〉<br>〈挨拶〉  | 医学教育振興財団理事長 小川 秀興<br>文部科学省高等教育局医学教育課長 袖山 禎之 |
| 10:10 ~ 11:10 | 講演 1  | <b>The Assessment of Clinical Competence in Undergraduate and Postgraduate Medical Examinations</b> | <b>Jane Dacre</b>                           |
| 11:10 ~ 11:50 |   | 〈質疑応答〉 司会) 東京慈恵会医科大学教授・教育センター長  | 福島 統  |
| 11:50 ~ 12:30 | 昼 食   |   |   |
| 12:30 ~ 13:30 | 講演 2  | <b>Workplace-based Assessments: Use and Abuse</b>   | <b>Trudie E Roberts</b>                     |
| 13:30 ~ 14:10 |   | 〈質疑応答〉 司会) 日本医科大学理事長  | 赫 彰郎  |
| 14:10 ~ 14:40 | コーヒー/ティーブレイク  |   |   |
| 14:40 ~ 17:10 | 総合討論  | 司会) 日本医学教育学会理事長   | 伴 信太郎                                       |
|               | 話題提供  | パフォーマンス評価による学習の質の評価   | 松下 佳代                                       |
|               | 話題提供  | 1年次主要症状ベースの医療面接 OSCE から展開する各分野横断的な統合教育の試み<br>-パフォーマンス評価としての16ステーション卒業アドバンス OSCEに向けて-                | 長谷川仁志                                       |
|               | 話題提供  | 医学部卒業生の質保証としての学習者評価   | 田川まさみ                                       |
|               | パネリスト: Jane Dacre / Trudie E Roberts / 松下佳代 / 長谷川仁志 / 田川まさみ |   |   |
| 17:10 ~ 17:20 | 閉 会   | 〈閉会挨拶〉  | 医学教育振興財団理事長 小川 秀興                           |
| 17:30 ~ 19:00 | レセプション  |   |   |

## 「医学教育におけるパフォーマンス評価 - パフォーマンス評価による学習の質の評価 -」 (趣旨と背景)

医学教育卒前教育では、「医学教育分野別質保証」(国際認証)が重要課題となっています。医学教育分野別評価基準日本版でも「卒業時アウトカム」に関して、卒業時に学生が身に付けているか教育成果として評価することを求めています。アウトカムとは、「知っている」だけでなく、その知識をもとに「できること」をいいます。従来の医学教育では筆記試験で学生の能力を測ってきましたが、「知っていること」と「できること」とは異なり、筆記試験だけでは「できること」を評価することはできません。そこで、アウトカムを評価するために、「できること」を評価する方法が必要となりました。「できること」を評価する方法として、今回のフォーラムで取り上げる「パフォーマンス評価」があります。

「パフォーマンス評価」は次のように定義されています。「ある特定の文脈の下で、様々な知識や技能などを用いて行われる人の振る舞いや作品を、直接的に評価する方法と定義できる。パフォーマンス評価は、学校だけでなく、学校外のさまざまな場面(仕事場、スポーツ、芸術など)でも行われている。」(佐伯 胖 監修、『「学び」の認知科学事典』。大修館書店。2010年。) 医学教育では、客観的臨床能力試験(OSCE)、Workplace-based Assessments(WPBA)やポートフォリオなどがパフォーマンス評価として用いられています。今回のフォーラムでは、OSCEやWPBAの発祥の地である英国からこの分野の専門家をお招きして基調講演をいただき、さらに国内でのパフォーマンス評価の試みを日本側の講師に解説していただきます。卒業生の能力をどのように評価し保証していくかという極めて重要な課題です。

Workplace-based Assessment とは、

今までも臨床実習での学生の評価として、観察記録が用いられてきました。学生が実際の現場でどこまで「できるか」を評価する方法として、Mini-CEX (mini-clinical evaluation exercise : 学生が実際の患者さんから病歴聴取や身体診察を行う場面で、指導医が学生の行動をチェックリストをもとに評価する)、DOPS (direct observation of procedural skills : 静脈採血などの実際の診療手技を学生が行うときに、指導医がチェックリストをもとに評価する)、CbD (case-based discussion : 学生が担当している入院患者さんの報告を指導医に行い、指導医との間で討論する内容を評価する) や Mini-PAT (mini-peer assessment tool : 病棟の多職種が臨床実習中の学生の評価を行い、これを臨床実習責任者がデータ収集する) などがあります。これらすべて WPBA です。この WPBA は英国の臨床研修制度、Foundation Course が 2006 年に 2 年間のコースとして開始されたときに、研修医の評価として組織的に導入されました。その後、英国ではパフォーマンス評価として卒前臨床実習にも取り入れられています。